

若いなかま

若いなかま No.186

2013(平成25)年 3月15日 発行

発行 福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号
吉塚合同庁舎6F

TEL(092)643-6001 FAX(092)643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.fayd.jp/>



目次

表紙 (県民さわやかマラソン)	1	平成24年度 (社)福岡県青少年育成県民会議賛助会員のご紹介 ..	6
県民さわやかマラソン	2	地域の話題(県民会議田川地区協議会、久留米市、北九州市) ..	7
県青少年育成指導者研修会および家庭の日・オアシス運動優秀作品表彰式 ..	3	赤えんぴつ	8
乳幼児教育研修会	4	事務局だより	8
特集「福岡乳児院のとりくみ」	5		

福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。

(昭和45年 社団法人となる。)

2012 福岡県民さわやかマラソン 目標は親子で完走!!

とき 平成24年11月18日(日)
ところ 海の中道海浜公園

今年で12回目となる福岡県民さわやかマラソン大会が、福岡市西戸崎にある海の中道海浜公園で行われました。

絶好のマラソン日和に恵まれ、いろいろなスポーツを楽しんでいる親子等、北は群馬県、南は沖縄県より、また小学一年生から87歳の高齢者まで、2186名が家族の絆と交流を深め、さわやかな汗を流しました。



福岡県民さわやかマラソン大会の始まり、来賓を代表して、毎年ご協力いただいているユニカミノルタビジネスソリューションズ(株)九州支店長の高木洋祐氏が「日々の練習をして来られたと思いますが、その



選手宣誓では、東住吉小学校六年生の西利樹さんと山口未夢さんが完走を誓いました。

努力が実を結び、皆さんの実力が遺憾なく発揮され、今年も良いマラソンであったと思える結果になることを期待しています」とエールを送りました。

クラブは、小学生が中心の部員56名で毎週六日間の練習をしての参加。昨年は優勝者三名の強豪クラブです。同クラブ監督の井口功氏は「スポーツは走ることが原点であり、小学生で基礎体力をつけて中学生からいろいろなスポーツを選択してほしい」と話していました。

井口監督も孫の有吉葵さん(小二女)と親子ペアで参加し143組中17位でした。

福津市から親子ペアで初参加の大塚美恵さん・優斗君(小三男)は62位、「いつもは走って

ないけど、お母さんと走って楽しかった」と優斗君。「きつかったけど来年も出ようネ」とお母さん。

福岡市早良区から参加の

橋本竜馬、香子夫妻と碧さん(小五女)・海君(小一男)親子も今年が初参加。「来年も是非参加したい」と言う子どもたちに、夫妻は「こころ」とさわやかな笑顔でした。



青少年育成をすすめている陸上クラブからの参加も多数あり、色とりどりの幟旗が、秋のさわやかな風に舞って保護者の応援合戦も

熱がはいつていました。

家族や仲間とのふれあいの距離が、すがすがしい汗とともに一段と強まった一日でした。

種目別入賞者

- ▼1キ口(小学1年)「男子」①草場貴士②丸井 暖③島崎 颯「女子」①檜崎友里奈②今野和奏③中村奏絵(小学2年)「男子」①藤本竜飛②竹田大輔③原田幸之介「女子」①和田水希②庭瀬沙耶③山本咲希(小学3年)「男子」①竹田優作②近藤 空③五木田英大「女子」①安部咲月②藤田早紀③甲斐千尋(親子)①田中智秀・舞姫②松岡修・晃③御手洗浩之・奈
- ▼2キ口(小学4年)「男子」①庭瀬俊輝②上神汰仁③城野翔之介「女子」①前田有葵乃②西出琳湖③藤岡加梨(小学5年)「男子」①大木ハートン②永田侑駿③岩瀬 匠「女子」①三好莉紗②中村友香③中村凜架(小学6年)「男子」①三井椋介②和田佑斗③石山英樹「女子」①廣澤涼羽②成瀬理子③久保志織(中学生)「男子」①山田 慶②福江真吾③丸山 翔「女子」①藤井菜々子②矢野彩那③山中花咲(高校生)「男子」①倉重伊路②大成幸希③的山竜也「女子」①早久都加紗②井上美春(親子)①菅原裕二・宏一郎②矢野宏幸・史龍③松岡 修・宙
- ▼5キ口(中学生)「男子」①入部栄太②西岡樹青③國武凜太郎「女子」①大村奈実希②中川結友③福山 心(高校生)「男子」①末田 怜②石田光一③山崎拓也「女子」①大石和佳奈②山下美緒③石井優美
- ▼10キ口(高校生)「男子」①永富天朗②西山結城③西田駿児

平成24年度 福岡県青少年育成指導者研修会

日時：平成25年1月26日(土)

場所：福岡県中小企業振興センター

「家庭の日・オアシス運動」個人2名に表彰状

研修会開催に先立って「家庭の日・オアシス運動」最優秀作品の表彰式が行われた。430点の作文と324点のポスターの応募の中から、作文部門には、芦屋町立芦屋中学校2年の松井紗和子さん、ポスター部門には、宗像市立河東中学校2年の坂田七海さんが選ばれ、表彰状と記念品が贈られた。受賞後、受賞者より作文の朗読と、応募の理由・作品の内容等のインタビューが行われた。



- 作文(松井紗和子さん(右))
- Q1 応募の理由は
A. 夏休みの課題
- Q2 どうしておばあちゃんのことを書いたのですか
A. 誕生会の時祖母が入院して寂しさを感じたから
- Q3 受賞の自信はありましたか
A. ありません。受賞しておどろきました。祖母が喜んでくれました。
- ポスター(坂田七海さん(左))
- Q1 応募の理由は
A. 美術部の顧問に勧められた
- Q2 どうしてこの構図を選んだのですか
A. 町で仲良く親子が手をつないで歩いていて、そのやさしさを表現したかった
- Q3 受賞の感想は
A. 頑張った作品なので受賞して嬉しかった

主催者挨拶で右田喜章県民会議会長は、家庭、地域、学校、企業の4者が協力して青少年健全育成の問題に取り組まないといけない等と述べた。

今回は、家庭問題情報センター福岡ファミリイ相談室・江口朋子氏とアクティブ・ペアレンティングジャパン代表・野中利子氏を講師として迎え、青少年の健全育成にかかわる非行と家庭問題や子育ての問題点解決の講演をしていただいた。

講演1 子どもの非行と家庭問題

公益社団法人家庭問題情報センター
福岡ファミリイ相談室

江口 朋子 氏

江口朋子氏は、元家庭裁判所調査官。福岡ファミリイ相談員として活躍中で、非行問題に家裁調査員の経験をもとに取り組んでいる。講演では、



非行は片親家庭が多く、再犯率が高い。離婚は大きな影響を与えている。

非行は、大別すると、三つのタイプがあり、①非行の大半は結婚し、自分に子どもが生まれればほとんどが少し落ち着くタイプ、②小さい頃からダラダラと非行を続けるタイプ、③めつたにないが起ったときマスコミが大騒ぎして問題になる突然の重大事件のタイプ。

それぞれのパターンがあり、①の場合万引、窃盗を子どもに犯罪ということを自覚させる。当然親にも犯罪だから被害者がいることを認識させることが大事である。

暴行で怪我をさせた場合、被害者に内容を確認し、加害者に具体的に伝えて理解させる。未成年者でも社会とふれあいが必要ということを親にも理解してもらい、ボランティア(草取りなど)をさせ、その時に色々な話を聞かせる。また、老人施設、障がい者施設に行かせて、社会に恩返し活動をさせて、大半の子どもを更生させる方法をとっている。

非行は親や家庭が悪いだけで終わらせず、起きたことに対して、どう対応するかが大切である。一つ一つ問題を取り除いていかねばならない。子どもは家族と情緒的感情で育てていくことが必要であると述べた。

講演2 関係づくりの役に立つ 傾聴・受容・共感

アクティブ・ペアレンティングジャパン
代表 野中 利子 氏

野中 利子 氏

野中利子氏は、福岡大病院精神科を経て、現在荒江のクリニックに勤務し、また、アクティブ・ペアレンティングジャパン代表として活躍中

である。講演では、クリニック内のカウンセリグや月二回の講座(母親の子育て問題点の対応)を具体的に話された。

コミュニケーションは、ただ話をしたら良いのではなく、深さが必要である。そうしないと気持ちに通い合う話ができないし、伝えることができない。



互いの気持ち、感情、心の中を言葉に表せない場合がある。

受容とは、受け止めることであり、子どもの話を最後まで聞いてやる。また、意識して聞くことが大事である。コミュニケーションは、聞くことと話すこととのバランスが必要である。聞き方として相手の話を否定しないでじっくり聞いてやり、返事はできるだけ言葉少なく相づち程度でよい。

自分の感情を口に出すことによってストレスが解消するし、マイナスのことを口に出しても親がそれを受け止めてやらないといけない。それがないと満たされない心が薬物等で満たそうとする。出来事を聞いてもらった、大切にされたと感じたら安心感、信頼感が生まれて心が癒され、心が満たされる。

子どもの良さをたくさん伝え、悪いことはなるべく目をつぶって「頑張ってるね」「良い子だね」等と良いイメージを子どもに話していくこと。さらに、重要なことは「何ができ、何ができないか」で評価せず「あなたがいてくれるだけでいい」等子どもの存在を伝えることが大事である。子どもには色々な体験させ、自分で学ぶことが大切であり、失敗しても問題はなく、失敗して子どもは大人になっていく。

最後に子どもに励ましの手紙を書いて「勇気づけ」をすると良いと結ばれた。

平成24年度 乳幼児教育研修会

日時：平成25年2月5日(火曜日) 場所：春日市「クローバープラザ」階クローバーホール

人は反抗期などを繰り返しながら成長していくものであるが、その中でも最も大切な時期が乳幼児期であると言われている。この時期の成長が人間形成の基礎となり、その後の人生を決めていくと言っても過言ではない。今年度も、子育ての理論や実践を学ぶ乳幼児教育研修会が多くの参加者を集め、春日市のクローバープラザで開かれた。家庭部会部会長の半田眞弓氏は「この研修会が乳幼児教育のヒントになればと思い開催している。そして最後に、今回の研修会は楽しかったねと言って貰えれば良いと思う」と挨拶した。

研修会は午前中、3市町による親子教室実践活動事例発表、午後は、九州大谷短期大学准教授・原陽一郎氏による基調講演と続き、最後に質疑応答など、活発な意見交換があり、有意義な1日となった。

基調講演

『子どもの生活とメディア』

九州大谷短期大学准教授
原陽一郎氏



「メディア」は素晴らしい。「メディア」は人間をおかしくする。どちらも真実だが、現状は「問題」の方が多い。

自信がない、自分を大切に思えないなど、その芽は乳幼児期からある。「授乳」はコミュニケーション能力の基礎を作る大切な時間である。

コミュニケーション能力は、実体験でしか身につかない。食事中のテレビ視聴などは、問題行動との相関が高く、コミュニケーション能力の不足が生じ、「普通」の子育てに問題が起きている。

デジタル・デバイス中毒。これは麻薬中毒と同じである。「メディア」依存は、低年齢化し、深刻化している。ゲーム接触開始年齢は、ゼロ歳児から発生し、「メディア」依存と共に生活が乱れてきている。子ども達は刺激に弱い。テレビなど、目と音の情報がズレていることが多く、学校でも人の話を聴く事ができない子どもが多い。乳幼児期は「メディア」からの刺激を少なくすることが大事である。ただし、人との関わりは積極的に！

「メディア」の内容が与える影響については、脱感作効果＝どうでもよくなる・何も感じなくなる。観察学習効果＝模倣（まね）をする。などがあり、乳幼児期は、これから生きていく世界を築いていく大切な時期でもあり、ニュースなどの「メディア」で社会の負の面の現実を早く見せられたら、子ども達に悪影響を及ぼす。「子どもは分からないだろう」と考えるのはとても危険である。「メディア」依存から脱するためには、家族への愛着形成、自己表現能力の形成、コミュニケーション能力の育成、自尊感情を育てることが必要である。

「メディア」は、乳幼児にとって百害あって一利なし！

* 「メディア」＝電子映像情報メディア

事例発表

『糸島市の親子教室事業』

◆糸島市青少年育成市民会議

糸島市親子教室では、「つなげる・つながる、子育て・子育て支援の輪」をテーマに、今年度は5つのプログラムを行った。保護者のアンケートなどでは、子どもとのふれあいがわがわが、たいへんよかった。いろんな悩みがあつて、自分だけじゃないんだと安心した。など好意的な意見が多かった。また、多くの子育て支援者や子育て支援ネットワークの拡充に繋がり、様々な体験を通して、大人も子どもも共に学び、主催者も参加者も共に成長できたといえる。

今年度の親子教室は「健やかな心と体を育む子育て」をメインテーマに、5回の親子プログラムを実施した。「何をどれだけ食べたらいいの？」では、クイズ形式で食べ物の役割などを学び、「おさいふをつくらう」では、オリジナルの財布作りに挑戦し、針の使い方などを学んだ。「味噌づくり」では、翅の働きや健康な体づくりを学び、「親子クッキング」では、大人と子どもがそれぞれ別々の料理に挑戦し、包丁づかいなどを学んだ。最後に、「親子クラフト」では、クリスマスツリーなどを作り、親子で楽しんだ。

今年度も、堅実な家庭づくりと社会教育の推進をテーマに、「親子豊作クラブ」の取組を行った。目的は、地域における話し合い学習でよりよい家庭作りをはかり、また、家族が食育を通して、健全な心身を培い豊かな人間性を育み、家庭教育の充実を図ることである。6月の開講式を皮切りに、種まきから中耕・除草作業・収穫と試食。味噌づくり・蕎麦打ち体験など、閉校式まで年間を通して5回のプログラムを予定していた。しかし、大雨のため中止となり、大雨の影響で一部変更を余儀なくされたことはちょっと残念な出来事であった。この事業を3年間続けてきて、参加者が確実に増えてきたことは、この取組が地域に浸透してきたことの表れであり、大きな収穫であった。

『健やかな心と体を育む子育て』

◆大川市青少年育成市民会議

『地域における話し合い学習のよき家庭づくり』

◆広川町青少年育成町民会議

特集

福岡
乳児院

青少年育成県民会議では、胎教期から幼児期をふくむ青少年育成を視野に入れて取り組んでいる。これまで、児童養護に関する施設はいくつか紹介してきたが、乳児院をお伝えすることはなかった。そこで今回は博多区西春町にある福岡乳児院を訪ね、施設長の渡邊勝美氏と保育士長・家庭支援専門相談委員の石崎小百合さんに保育内容や現状、利用手続き等についてお話をうかがった。

《福岡乳児院の始まりは個人事業から》

昭和11年、財団法人太田家報徳会により福岡社会館を設立。昭和31年12月に社会福祉法人「福岡県社会事業団」の経営となり、昭和54年に現在の博多区西春町に移転し、昭和56年に「福岡乳児院」に名称を変更する。平成4年に福岡市乳幼児健康支援一時預り事業を開設。平成11年には家庭支援相談室を開設。平成17年には小規模グループケア・パンビホームを開設している。

《利用状況と手続き》

*定員は45名(市32名・県13名)。利用するには、地域の民生・児童委員、福祉事務所に相談の上で、児童相談所を経て必要と認められた時に入所できる。費用は所得に

じて、一部負担または無料。

*職員は53名で直接子ども達の世話をする看護師、保育士、児童指導員は39名。

*入所には3つの利用方法があり、

長期入所：(1ヶ月以上おおむね3歳まで)

保護者が入院・離婚・別居・家出・死亡などのため保護者に養育能力がなく、養育不適の場合、その他養育に欠ける場合。

短期入所：(1ヶ月未満)

保護者が出産、疾病、病氣看護など緊急の事情がある場合。その他短期長期を問わず赤ちゃんの養育ができない場合。

シヨートステイ：(2週間以内)

保護者が出産、傷病、病氣看護など緊急の事情がある場合。一時預かり保育として利用できる。

《保育内容・年齢によって3つのクラス分け》



コアラ組：0歳から6か月のクラス

で、現在10名の赤ちゃんが生活している。職員14名が夜勤を含め3交代勤務で養育にあたっている。

うさぎ組：6か月

から1歳6か月の子どもたち12名が生活しているクラス。

人見知りしたり、お互いに気遣ったりする場面も見られる。職員11名で養育している。
パンダ組：1歳6か月以上の子ども達のクラス。

スで、12名が生活している。

家庭間の調整を行う時期で措置変更を決める時期に入る。家族の元に帰るケースも6割以上あり、その他の子どもは児童養護施設、里親のケースもある。

パンビホーム(小規模グループケア)：2歳児4名で4名の職員と兄弟、家族のように暮らしている。土・日は乳児院に戻ってくる。また緊急時に備え新任の職員は同じ建物の

2階3階の宿舎に住んでいる。

*地域とのつながり大切に

地域の夏祭りや防災訓練など一緒に行ったり、地域ボランティアの方にも支援してもらっている

「子育ては一人で抱え込まずにいろいろな機関同様、乳児院も利用してほしい。一時預かりの保育所感覚で活用してほしい。シヨートステイもあるので気軽に相談してください」と、保育士長の石崎小百合さんは最後に強調された。



乳児院は、戦後のイメージとは大きく内容が変わってきている。何となく把握していたことと現実とは違うことを痛感した。もっと身近で利用できることを知り、また家庭に帰る子どもも60%以上と聞き、少しうれしかった。

いつもそこに、いつでもそばに。



ココロがある。コトエがある。
西日本シティ銀行

平成24年度 (社)福岡県青少年育成県民会議へ賛助いただいた会員のご紹介

(敬称省略：50音別)

次の世代を担う青少年の健全育成活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。何卒今後もご協力ご支援をお願い申し上げます。

特別賛助会員の皆様

エントリーサービプロモーション(株)	西 部 ガ ス (株)	日本映像ソフト制作・販売倫理機構九州支部	福岡県ボウリング場協会
九州電力(株)	(株) 筑 邦 銀 行	(株) 福 岡 銀 行	(株) 福 岡 中 央 銀 行
九州旅客鉄道(株)	(株) 西 日 本 シ テ イ 銀 行	福岡県アミューズメント施設営業者協会	ポ ン ウ エ イ (株)
(株) 九 州 電 工	西 日 本 鉄 道 (株)	福岡県信用保証協会	
コカ・コーラウエストホールディングス(株)	日 本 た ば こ 産 業 (株)	(公社)福岡県宅地建物取引業協会	

団体賛助会員の皆様

(株) あ ら い	九州ホテル(株)	第一生命保険(株)	(社)福岡県コ口二一
NPO 飯塚市青少年健全育成会連絡協議会	(合) キ ャ メ ル	高 木 印 刷 社	富 士 火 災 海 上 保 険 (株)
糸田町自由ヶ丘老人クラブ鷺会	桂川ライオンズクラブ	東京海上日動火災保険(株)	(学) 藤 川 学 園
岩崎建設(株)	(医) 光 風 会 宗 像 病 院	(株) 西 日 本 新 聞 印 刷 社	(株) 瀧 上 フ ァ イ ン ス
岩本明子英会話教室	(医) 高 邦 会 高 木 病 院	(株) 二 宮 佛 具 製 作 所	(株) フ ラ ワ ー ビ デ オ
上村建設(株)	公立学校共済組合福岡宿所	(株) ハ ち や ん 堂	(株) 三 井 松 島 産 業 信
(株) お お す み 制 服	小竹町御徳工業団地企業連絡協議会	(株) ヒ ュ ー リ ス ア カ デ ミ ー	三 井 ナ ミ 商 事 (株)
大野城ライオンズクラブ	(株) 三 一 広	(株) ヒ 口 カ ネ	(株) 明 治 安 田 生 命 保 険 相 互 会 社
(一社)学士会福岡支部	三 和 ス ポ ー ツ (株)	(街) 深 町 印 刷 房	(株) 百 田 工 務 店
粕屋殖産(株)	(医) 三 裕 会 拾 六 町 病 院	福岡空港ビルディング(株)	(株) 山 本 組
嘉徳無線ホールディングス(株)	S Y D 修 養 団 福 岡 県 連 合 会	財 福 岡 県 交 通 安 全 協 会	(株) ワ イ ス ヨ シ ハ
(株) 環 境 開 発	新日鐵住金(株)八幡製鐵所	福 岡 県 私 学 協 会	(株) 石 橋 印 刷 (株)
苅田ライオンズクラブ	(医) 成 晴 会 堤 病 院	(社)福岡県私立幼稚園振興協会	(株) 西 日 本 新 聞 会 館
キューサイ(株)	(株) 瀨 利 宗 助 商 店	福岡県遊技業協同組合	(社)福岡県労働者福祉協議会

広告協賛団体の皆様

(株) 西 日 本 シ テ イ 銀 行	日 本 た ば こ 産 業 (株)
---------------------	-------------------

封筒広告協賛団体の皆様

(株) 西 日 本 シ テ イ 銀 行	(株) ぎ ょう せ い 福 岡 支 社	高 木 印 刷 社
---------------------	----------------------	-----------

助成金支援団体様

(社) 福 岡 県 共 栄 会

個人賛助会員の皆様

青野 隆子	植木美津枝	岡村 潔親	木原 忠	紫牟田和男	谷 治子	中村 清	稗田 慶子	堀家 克巳	守田 栄三
青木 毅	植田 茂実	岡村 憲人	木室 和子	下茂野 寛	種延 和子	中村 征一	東 久恵	真子 太	森永 武彦
赤星 満子	植田富士子	小川 洋一	草場 浩康	庄司 真美	田畑 隆明	中村 治幸	東野 芳枝	増田美智代	森永 泰雄
秋武 純子	上野 一成	荻島 聡浩	熊野 君男	白土 聖司	田原 智子	中村 睦子	久野 一生	松石 量則	森野美枝子
秋山憲一郎	上野 静香	尾崎 寛	熊本 幸雄	白藤 史	田淵慎一郎	中村 睦子	久野 尚基	松浦 孝徳	八重野信子
浅野 翔太	植松 惟祐	尾崎 維津美	倉重 健一	進 成具	塚 本 靖	滑石 隆紹	久下 正俊	松枝 米洋	八木 知英
阿多 一信	上村 育也	落石 藤隆	倉富 昭正	末田 金次	辻村 哲弥	灘波 千明	泥谷 和男	松尾 嘉郎	安武 憲明
穴見 英三	牛島 昌哉	音成 桂子	厨 元博	末次 威生	津上 孝	灘波 英次	秀 ハツエ	松岡あかね	八尋 祐二
阿部総一郎	内田 隆敏	音成 浩子	毛屋 信	末弘 孝之	坪称千鶴子	西 貞佳	日野喜美男	松岡 久代	山田 和子
新井 潤	内山 慶子	音成 道彦	河野 達海	末松 六則	手島 道子	西岡 辰隆	百武 剛	松隈 秀隆	山田 文文
新井 洋子	内山 信勝	音成 陽子	古賀 敬子	須貝由美子	徳永 文晤	西山 隆	兵頭 正俊	松隈 浩	山田 憲勝
有馬 博	梅川由美子	小山雅千子	古賀 直人	菅澤 幸世	富澤 義敬	二宮 和子	平田 美子	松崎 範子	山根 千里
有吉キヌ子	梅木 聡子	戒田 協枝	古賀 祐三	杉原 憲宏	中島 浩	野上 明倫	平野 真規	松崎まどか	山本 正義
有富 貞義	浦 敬晴	貝原 正司	小佐井麗菜	鈴木 理	中島 克己	野田 力	深井 健児	松本 純也	湯浅 光紘
井浦 蘭子	浦田 幸子	柿本 憲治	小崎 恵司	鈴木 康敏	中島貴美子	野田 好秋	福井 悦子	松本 美香	油布 貴久
伊折 千秋	江川 洋	陰山 一夫	古園井広記	副島 紀身	中島 俊介	野山 弘明	福澤 信義	松本 洋子	横溝 彌太郎
石川 治夫	江崎 恵子	笠原 高司	後藤 秀昭	園田 秋吉	中島 信行	橋本 愛子	福島 正人	松本 好成	横山 繁利
石橋 具視	江崎美津子	笠原 高司	後藤 政喜	染矢 敬雄	中島 利男	橋本 愛子	福田千歌子	間普 敦	吉岡まち子
石丸千恵子	江崎 峰子	柏木 静香	後藤 政喜	田尾 泰幸	中嶋 俊子	嶋田 規一	藤田 孝子	丸山美恵子	吉里 光世
石丸 仁志	江副真喜子	梶原 保則	小林 孝行	田和 昭壽	中嶋 博之	畑中 ミナ子	藤田 直子	三木 茂靖	吉武 寛将
磯部 陽裕	江藤 天信	数山 栄子	小林 祥彦	高田 博文	中下 啓志	畑中 ミナ子	藤田 直子	満生充一郎	吉田 壽一
市川 民江	大石 光代	香山 均	小林 正之	高取 安代	中園 宏	葉玉 博幸	藤田 信治	光延 時江	吉田 善仁
伊東 明子	大内マツノ	加藤 重敏	小林 美穂	竹井 章	中園 真史	初山 宏	藤竹庄次郎	南 博	吉田 善美
伊東 清寛	大里キヌエ	樺島 篤	小宮 董	竹田 芳朗	永野宏二郎	花田 拓	藤津権三郎	宮崎 陽子	吉留 節子
伊東 千鳥	大澤 良一	樺島 義幸	小宮 良俊	竹永 悟	永野 仁	花田 真雄	藤野 真美	宮永登志男	吉永 康之
稲富 明	大島 勇夫	神園 勝義	坂口 千恵	竹本 邦利	永野 歩美	花村 彰夫	藤本 廣子	牟田 敏雄	吉原 陽子
井上 高頭	太田 強	神谷 洋平	坂本 大典	田籠 重利	長野 春奈	花村 哲	藤山 泰三	牟田利加子	米倉 秀之
井上 智朗	太田 哲也	神谷 龍治	笹尾 順子	田代 保博	長野 繁室	馬場 京子	藤原 正子	村上 英一	力武 暁
井上 俊治	大西 潤平	幸島 秀典	佐藤 和久	田中 信	長野 士郎	濱口 大祐	淵上 孝	村上 治	力丸 敏光
今富 健二	大庭 奈名	川上 瑞穂	佐藤 俊之	田中 一郎	中野 慎一	早川久美子	不動 勝義	村上 信子	渡辺 常朝
今富美代子	大原 始	河崎 充	里永 純二	田中 一弘	長畑 伶子	早川 良子	船越 章夫	村田 浩	渡辺 博史
入江 智子	大曲 昭恵	川島 純	塩川 秀敏	田中 浩治	中原あや子	林 初代	古川 雅子	村田 洋平	渡邊 康夫
岩城 辰美	大道 和彦	河原さよ子	芝 義勝	田中純一郎	中原潤一郎	林 賢太郎	古川 孫一	村山真知子	
岩村 幸二	大藪 和彦	菊次 和夫	柴田 照子	田中 慎二	中原 千晴	原 明義	戸次 光生	本園 明	
因 征四郎	緒方 祐介	木佐貴光代	島津 俊寛	田中 哲也	中原 憲幸	原 桂子	別府 隆文	森 博子	
植木 節美	岡松 直照	城戸 徳郎	島津 俊幸	田中 睦子	中原 康之	原口 庄塑	堀口 國勝	森尾 隆行	

地 域 の 話 題



「少年の主張」田川地区大会

青少年育成市民会議田川地区協議会
 平成24年度第19回「少年の主張」田川地区大会が平成25年2月2日(土)添田町オーケホールで開催されました。この大会は田川市郡一体となった青少年健全育成の重要な取組と位置付け、それぞれの市町村から選出された小中学生が社会に向けての意見や未来への希望や提案、家庭・学校・地域社会など身の回りの出来事などに関して自らの考えを主張するものです。当日は8市町村の首長や教育長等をはじめ、青少年関係者、保護者、児童・生徒等350名の聴衆の前で5名の小学生と4名の中学生が堂々と自分の考えを主張しました。

また、審査中に行われたアトラクションでは添田中学校の吹奏楽部が部の卒業生とともに「花は咲く」東日本大震災復興支援ソングなど感動的な3曲を披露しました。

結果発表では発表者全員に表彰状や記念品が授与された後、その中から添田小学校6年生の萬徳雄太君と中央中学校2年生の水上菜緒さんが優秀賞を受賞し「平成25年度少年の主張福岡県大会」田川地区代表として推薦されました。
 子どもたちの主張はどれも聴衆の心に響く感動的なものばかりでした。

輝け子どもたち～子供文化祭に寄せて～ ～和太鼓競演会・ふれあいスケッチ大会～

久留米市青少年育成市民会議

子どもたちが心身ともに健やかに育っていくために、スポーツや文化芸術での活動の機会や場を準備するのは大人の役割です。本事業は特に文化面での子どもたちの活動の機会と場を提供しようとするものです。地域の人たちと一緒に和太鼓の演奏に取り組むことを通して学ぶことはたくさんあります。

親子で由緒ある石橋文化センターの庭園で画用紙に向かっての姿は感慨深いものがあります。子どもたちは、きっとこれらの体験で学んだ地域の人たちのこと、親のことを背景に健やかに育っていくものと信じています。



国際英会話キャンプ

北九州市青少年育成市民会議



毎年夏休みに国際英会話キャンプを開催して9回目を数えました。今年は北九州市内の小中学生40人が参加し、グローバルアリーナ(宗像市)で米国から来た青年リーダーたちと2泊3日のアメリカ生活疑似体験をしました。アメリカ村に着くとパスポート片手に入国審査や通貨交換をし、はじめは緊張してぎこちなかった子どもたちもフレンドリーな青年リーダーたちとすぐにうち解けました。活動内容は、アメリカの街並みを再現したお店を巡ったり、ダンスパーティやカーニバル、そしてお別れの日には子どもたちの英語劇の発表会など。片言の英語を一つずつ覚えながら、異文化に触れ、言葉と心を通わせた素晴らしい体験となりました。

本当にやさしい大人は、



ちゃんと注意できる大人です。

ひとのときを、思う。 JT

未成年者の喫煙は、大人一人ひとりが自覚し、社会全体で取り組む問題です。

JTの活動 私たちJTも全国各地で「未成年者喫煙防止協議会」の開催や「啓発キャンペーン」の実施など、地域に密着した活動に取り組んでいます。

未成年者の喫煙は法律で禁じられています。日本たばこ産業株式会社 福岡支店

20歳になるまでたばこは吸わせない。 NO! UNDER 20

新賛助会員の紹介

加入月日順 (H24.11.5 ~ H25.3.15)

- 松崎まどか (福岡市)
- 橋本 愛子 (福岡市)
- 石丸千恵子 (飯塚市)
- 石丸 仁志 (北九州市)
- 永野 歩美 (宗像市)

事務局だより

主な行事(平成24年11月16日)

〜平成25年3月15日

- 11月27日(日) 健全育成部会
- 12月2日(日) 小・中・高校生を(つ)なぎ、育てる野外学習 報告会
- 7日(金) 県監査
- 13日(木) 青少年団体連絡協議会(以降、青連協) 常任委員会
- 26日(水) 常任理事会・合同会議・懇親会
- 1月15日(水) 家庭部会「家庭の日」(オアシス運動) 作品展示(〜1/25まで)
- 17日(木) 青連協常任委員会(以降、2/21)
- 21日(月) 第11回広報部会(以降、2/12、26、3/5、12、18)
- 24日(木) 第6回健全育成部会(以降、3/13)
- 26日(土) 福岡県青少年育成指導者研修会・「家庭の日」(オアシス運動) 最優秀作品表彰式
- 29日(火) 福岡県青少年育成アドバイザー連絡協議会理事会

2月5日(火) 乳幼児教育研修会

- 6日(水) さわやかマラソン大会事務局会議
- 7日(木) さわやかマラソン大会監査
- 9日(土) 九州地区青少年育成アドバイザー連絡協議会研修会
- 18日(月) 広報部会「福岡乳児院」取材
- 20日(水) 共同募金会配分ヒアリング・総務部会
- 21日(木) 青連協常任委員会(以降、2/21)
- 22日(金) 青少年囲碁大会第3回実行委員会
- 28日(木) さわやかマラソン大会実行委員会
- 3月12日(火) 第5回理事会
- 22日(木) 市町村民会議等合同研修会

お知らせ

社団法人福岡県青少年育成県民会議は、平成25年4月1日から県知事に公益性を認定された、公益社団法人に移行する予定です。当法人に寄附を行った法人及び個人は税制面で優遇されます。

今後とも皆様からのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(詳細につきましては、次回の広報紙やホームページでお知らせいたします。)

青少年の健全育成のために 賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議では、少年の主張大会、サマーキャンプ、マラソン大会など、様々な活動をしています。県民会議の活動に賛同いただく賛助会員の募集を行っています。会費は左のとおりです。電話 (092-643-6001) いただければ、資料をお送りいたします。

ホームページ: <http://www.fayd.jp/>



賛助会員の年会費

- 個人 1口 1,000円
- 法人又は団体 1口 15,000円
- 特別賛助会員 1口 50,000円

納入いただく方法

会費は、社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

- 西日本シティ銀行県庁前出張所 (普通預金) 0163919
- 福岡銀行県庁内支店 (普通預金) 526475
- 筑邦銀行福岡支店 (普通預金) 1597091
- 福岡中央銀行本店 (普通預金) 1030569
- 県庁内郵便局郵便為替口座 福岡 01700-5-4057

福岡県飲酒運転撲滅条例

この条例は、全国初の罰則付き飲酒運転撲滅条例で、昨年、施行されました。

飲酒運転をなくすためには、県民一人ひとりが、「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない!」という強い意識を持つことが必要です。

県民、事業者、行政などが力を合わせて、飲酒運転のない安全で安心して暮らせる社会を作りましょう。

お問い合わせ先: 福岡県庁生活安全課
(092-643-3167)

飲酒運転は、絶対しない、させない、許さない!



エコファミリー募集

～家庭からはじめる地球温暖化対策～

福岡県では、「ふくおかエコライフ応援サイト」又は「ふくおかエコライフ応援 book (福岡県環境家計簿)」を参考に、電気やガス、水道使用量の削減など、家庭での省エネルギー・省資源に取り組む「エコファミリー」を募集しています。身近なところから地球温暖化防止の取り組みをはじめませんか。

お問い合わせ先 福岡県環境部環境保全課地球温暖化対策係
電話 **092-643-3356**

ふくおかエコライフ応援サイト (<http://www.ecofukuoka.jp/>)



赤えんぴつ

退職して母校の小学校近くの交差点で、毎朝の登校児童の見守りをはじめ、8年目をむかえる。

時が経つのは早いもので当時の小学一年生も中学三年生となる。

大きな声で挨拶する子、うつむきかげんに小さな声の子、朝から元気がない子など様々だ。もう少し朝の挨拶ができないものかと思ったりもした。

ある日の夕方、犬の散歩をしていると、朝の挨拶が苦手な女の子二人が後から付いてくる「どうかした?」と聞くと、「おじちゃん朝いつも見守ってくれてありがとう」と言う。「エッ」といって「ああ、どうも」と言うのがやっとならした。

子ども達はいろんな態度をとるが、心ではみんな感謝の気持ちを持っているにちがいないと気付かされた。二日酔いの時など朝起きるのがつらいときもあるが、今日も一日子どもたちから元氣と笑顔をもらわなければと出かける毎日である。

もうすぐ新学期、今年はどうなピカピカの一年生に会えるか、いまからわくわくしている。

広報部会委員 安武 憲明